

守る、育む、獲る、狩る、採る。自然と向き合うすごいすとたち

# 漁師 × 猟師 × 農家



「坊勢漁業協同組合」  
代表理事組合長

竹中 太作さん (姫路市)

姫路港から船で30分ほどの坊勢島(ぼうぜじま)で生まれ育つ。おすすめは坊勢サバの刺身。

害獣捕獲指導員  
兵庫県警嘱託犬指導員

吉井 あゆみさん (朝来市)

父の影響で始めた狩猟を愛犬の喜ぶ顔見たで仕事に。鹿肉は塩胡椒でステーキに。

株式会社AgLiBright  
(七代目藤岡農場)代表取締役

藤岡 啓志郎さん (多可町)

未病研究から就農。有機農業や耕作放棄地活用も。加熱した生にんにくを塩とごま油で。

昨今の厳しい「食」の現場に立つ生産者が六甲山に集結して語った。時代や環境が変化する中、自然との闘い、どう向き合っているのだろうか。



## 竹中太作さんの「海を守る取り組み」

坊勢島の漁師・竹中太作さんが組合長を務める坊勢漁業協同組合では、サバや蟹、牡蠣、ハマなど一年を通して獲れる魚種が多い。いかなごもしかり。しかしここ数年、不漁続きで2025年は2日間で終漁。「アナゴも昔はよく獲れたんですけどね」と、嘆く。海の自然環境を守るため「できることはなんでもする」と、海底ごみの回収や海に栄養を増やす取り組みにも積極的だ。稚魚は海に戻すなどして乱獲も禁止、海の生き物と人との共存を図っている。

## 吉井あゆみさんの「いのちとの向き合い方」

朝来市の吉井あゆみさん40年近く猟師を続ける。自宅に

加工所を併設し、仕留めた鹿や猪を瞬時にさばき、新鮮な状態で飲食店などに届けている。一方、朝来市では害獣も多いため、市から委託され、狩猟期以外も駆除のため山に入る。「動物たちには失礼かもしれないけど、私は“駆け引き”していると思ってます。あちらもいのちをかけていますから。私が勝った場合は、自分でも必ずいただくようにしているんです。それが吉井さんの、いのちに対する感謝の表れだ。自然相手の仕事には、同じ状況は二度来ない。「勝つ」ために努力し続けることが、好き」と、眼差しは強い。

## 藤岡啓志郎さんの「原風景を取り戻すための選択」

多可町で六代続く農家を継いだ藤岡啓志郎さんは、大学で未病研究をするうちに食と農に興味を持ち、最先端を学

ぶため渡米。帰国後、有機など環境にやさしい農法を取り入れ、米やニンニク、黒大豆を育てる。耕作放棄地の解消や害獣駆除にも率先して動く。幼い頃によく見た赤とんぼや蝶々が田畑を飛び回る光景。そういった自然環境を取り戻したい思いもある。「自分が蒔いた小さないのちの種を大切に育てることで芽が出る。その瞬間、なんとも言えない幸せな気持ちになる」と、農のさまざまな魅力を語る。

## 常に自然環境の変化とともに。

猛暑や水不足、被害や害虫問題など、過酷な自然環境の中で、“いのち”と対峙している生産者たち。時代や環境の変化をその都度捉えながら、誰よりも自然やいのちの尊さを思い、私たちの食を支え続ける。

## 新たな自分を見つけた！ 体験以上の収穫を得た学生に 広がる未来

2013年にスタートした兵庫県のウェブマガジン「すごいすと」において、インターンシップ事業は初の取り組み。過去に掲載した「すごいすと」の中から16名の方が協力してくださり実現しました。県内外から多くの応募があり、大学生19名が、夏から冬にかけてそれぞれが希望する「すごいすと」のもと、地域活動や仕事を体験しました。たとえば、「すごいすと」田村幸大さんののもとで、西宮のさくらFMの収録サポートやラジオパーソナリティーなどを務めました(写真右上)。単に作業を経験しただけではなく、地域内外で活躍する「すごいすと」の考え方や働き方、周囲とのかわり方などに触れ、自分自身と向き合うきっかけになった学生も、これからの進路や人生を考える上でも大きな学びを得たようです。



## Topics インターンシップ

「兵庫の『すごいすと』のもとでインターンシップをしよう！」と、2025年度に初めて実施したプロジェクトです。



まだまだ読み足りない方は  
すごいすとWebマガジンへ！



PODCAST  
「聴くすごいすと」  
「すごいすと」の生の声を  
ポッドキャストで配信中！



お問い合わせ・連絡先  
兵庫県 県民躍動課  
神戸市中央区下山手通5丁目10番1号  
電話:078-341-7711(代表)

※2026年1月末現在の情報です 発行日:2026年2月7日

## すごいすととは 「自分 × 仲間 × 地域」の 熱量を携える「ひと」

兵庫県には、各地さまざまなシーンの中で、圧倒的な熱量を発する「ひと」が数多く存在します。そんな、スゴい「ひと」を私たちは「すごいすと」と呼びたいと思います。このタブロイド紙は、すごいすとWebマガジンからピックアップして構成しています。

170人 | 36団体



# 地域と、挑む 伝統に新風を

## 01 大衆に愛される人形浄瑠璃の一座 淡路人形座 座員と地域が 一丸となって

今、淡路人形座が、あつい。インスタグラムのフォロワーは12万人に。劇場の客入りも増え、子どもや若者の観客も。地元キッズダンサーや音楽家とコラボしてオリジナル楽曲を制作したり、人気ヒップホップ曲をSNSで踊ったり、子どもも理解しやすい演出『ももたろう』を取り入れたり、独特な用語や人形のしかけなどをショート動画で解説したり……。地域との長年の関係性も相まって、斬新な挑戦の数々が実ってきている証だ。だが実は4年ほど前、解散危機に陥った。「500年以上続く伝統芸能を絶やすまい」と、座員たちは老いも若きもなく立ち上がったのだ。熱き団結が、次への飛躍を予感させる。





おもいど技術  
Heart & DX

# 03 神戸の農と食に有機で策を打つ

有機農家  
「株式会社ナチュラルリズム」代表取締役

大皿 一寿さん  
自分にしかできない守り方



かつて起業家を目指した青年は、紆余曲折を経て「農業家」になった。野菜をつかって売ってだけではない。有機農業の指導、イベントやマルシェの企画運営、県や市への提言、里山保全、講演会への登壇……。有機農業を広めるべく仕組みを考え、多くの役割を担う。農業で得た幸せの価値を次々に伝えていく。



Another Story

いくつもの事業や活動を同時に進行するが、ぎらついたものはない。「静かなる野心」で周りの期待に応えていく。ヤギを飼いだめたのも市の勧めから。今では地域の子どもたちにも大人気。

想いをともにするお客さんと仲間が増えていく。

# 02 西宮から海を守る

ジョギングしながらごみを拾うプロギング。ゲーム性をもたせて楽しむ。

西宮が好きすぎる、海のグローバル企業  
古野電気株式会社



地球規模の課題に、おもいど技術力で、挑む  
ここ数年、売上・利益、株価も上昇中。創立80周年を前に景気がいい古野電気(フルノ)は、日本の漁を変えた。一人の漁師の言葉に端を発し、勤と経験だよりから科学的な漁へと。今や漁に必須の魚群探知機やレーダーなどの機器を開発・製造・販売。主な顧客は漁師や船長だ。漁港へ足を運び、要望やクレームなどをじかに受ける浜営業スタイル。それを製品開発や改良に生かし、世界でもシェアを拡大。売上の約7割は海外向けというグローバルニッチトップの企業へと飛躍した。創業時からこうした「現場種技(フルノではこう表現する)」が脈々と受け継がれ、地域活動にもつながっている。主導するのは取材に応じてくれた経営企画部のみなさん。「西宮の人たちとずっとつな



がりたい」と、海で培ったフルノの技術と知見を生かすことで地域の役に立ち、かつ自分たちも楽しめる活動をいくつも企画・実行する。海に育てられた企業の使命として、「海を守る」活動も進行中。「地域の人に直接働きかけるのが自分たちらしさ」と考え、掲げたのは「好き」へのアプローチ。市内小学校でのイベントは、ある児童の声がきっかけだったのもフルノらしい。後日談、子どもたちへの効果は想像以上だった! 想いがあるから人は、動く。だが、海の問題を解決するのに「好き」だけでは立ち行かない。真骨頂の技術開発力との合わせ技で、大きな課題に挑む。創業時から続く揺るぎない核の上で、時代に応じて変革する。長く続く企業にはワケがある。

Another Story

海の魅力を伝えようと、経営企画部が中心となって企画・制作した絵本『お〜い!うみ』。イベント時などにノベルティとして配布するほか、同社ウェブページでも公開している。



# 「守りと攻め」のすごいすと

何かを大切に思うとき、人は守ろうとする。ときにその手段は革新的で前例がなく、反発を招くことがあるかもしれない。現状維持よりも変化や挑戦を選び、地域を巻き込んで結果を出している、兵庫の「すごいすと」たちを一挙紹介。

# 04 新温泉町をレコードで轟かせる

「日本精機宝石工業株式会社」代表取締役  
「一般社団法人シン音楽」代表理事

仲川 和志 さん



残りの人生をかけて町をおこす

温泉とレコード、癒しの掛け算は多くの人を呼ぶかもしれない。日本海に面する新温泉町で日本のレコード針産業を支えてきた三代目。都会で生まれ育ち、事業承継後も都会で日夜働いた。60歳手前で体調を崩し、ルーツに帰ったところ価値観に変化が。コミットしてきた過去と出会いが気づきをもたらした。人生第二章を地域に捧ぐ、まっすぐに。



Another Story

海外や遠方客も多いレコード鑑賞の体験施設「Feel Records」では地元の銘菓を振舞う。「シン音楽」では地元や近隣住民が気軽に訪れるレコードイベントを開催。町を盛り上げるアイデアは尽きない。



心の状態によって心地よく感じるテンポがあり、音の振動は肌からも受け取るという。

Another Story

姫路・播州への感謝と、もっと貢献したい想いも乗せて、社名に「姫路」を追加。直売所リニューアル時に導入した大きな暖簾には、亡き父と過ごした幼少期の体験が生きた。



# 05 二刀流で姫路に「誘う」酒蔵



「姫路灘菊酒造株式会社」代表取締役社長 兼 社氏

川石 光佐 さん

しなやかさと堅実さも備える  
経営視点を手に入れた職人



32歳で南部社氏になった10年後、100年続く格式と父が築いた観光蔵の地位を、継いだ。その矢先、コロナ禍に。いきなりの試練も「職人と経営者の二足のわらじを履く覚悟が持てた」と好機に捉える。設備投資に踏み出したら、効率化が図れて夢だった賞も獲得。SNSには自ら出演しつつ、売り場にも酒造りの現場にも毎日入る。造り手の顔が見えるようにと自身の名を冠した飲みやすいブランドを立ち上げ、客層を広げた。蔵人体験イベントなど「誘う」企画も増加中。振り子の真ん中に立つ彼女は、「思い出に残る味と体験をつくるべく、今をまい進する。

## 2025年度はほかにこんな「すごいすと」たちが!

- 

地域プロデューサー / Keny Design Office 代表  
清水 健矢 さん (丹波市)  
移住6年で9事業の立ち上げを実現。これからも自分とまわりに楽しいサイクルを生んでいく。
- 

地域の商品を売り、利益を還元する会社  
地域商社 RAKU (多可町)  
このままだと地域が資金不足で消滅する一。生産者との関係構築で見た「生きた商売」で生き残りをかける。
- 

「したまのえきロックン」代表 / 鍼灸師  
合田 三奈子 さん (神戸市長田区)  
変化する下町で「つなぐ」活動に奔走。人生急停止を経て鍼灸師に。人より深くかかわる道が加わった。
- 

市民による夏まつり「芦屋の火花」を続けてきた  
芦屋市民まつり協議会  
2026年で48回目。30年近く完全ボランティアで続けられるのは、矜持と狂気と仲間の存在。
- 

株式会社ムサン 代表取締役社長  
岡本 篤 さん (加古川市)  
目の前の人の役に立とうと地域課題に挑む。朝市や河川敷での賑わい創出も。元冒険家・ジャーナリストでもある。
- 

萩原珈琲株式会社 代表取締役  
萩原 英治 さん (神戸市灘区)  
生態学の理論を生かして、人やまちの様々な「関わりしろ」を増やす。参加したくなる工夫の連発で。
- 

MAINDISH DELICATESSEN オーナー  
REMAH さん (芦屋市)  
ホンキで世をよくするぞとアーティストがカフェ開業。がむしゃらに! 自由に! の活動に人が集まり、うねりが拡大中。